

## 平成27年度 事業報告

我が国の経済状況は、アベノミクスと呼ばれる経済政策のもと、しばらく緩やかな回復基調が続いていたものの、最近では国内総生産（GDP）がマイナス成長となり、企業収益が下方修正される見通しや個人消費の落ち込み等から、景気の動向は先行き不透明な状況であり、また、日銀のマイナス金利政策の影響も懸念されるところです。

このような状況の中で、急速に進行する少子高齢化や核家族化の影響を受け、高齢者や子どもの貧困、家庭や地域で支え合い助け合う力の低下により、孤独死やひきこもりなどの『社会的孤立』、子どもや高齢者の『虐待』などの痛ましい事象が顕在化しております。従来からの福祉課題である『生活困窮』の他に、既存の福祉制度等の狭間から生じる『社会的孤立』等の課題に対し、平成27年度においては、「地域での見守り体制の強化」や「ひきこもりに関する調査・支援」などを実施し、問題解決に向けて地域及び関係団体の方々と協働して取り組んでまいりました。

平成27年度の各事業につきましても、自治会関係者、民生委員児童委員、社会福祉施設、福祉関係団体、ボランティア団体及び福祉関係者などの多くの皆様、そして亀岡市をはじめ行政機関のご理解、ご協力及びご支援をいただき、常に住民の皆様と同じ目線に立ちながら「誰もが住み慣れた地域で、安心・安全に暮らしていただけること」を基本に、地域福祉のさらなる推進と質の高い介護保険サービス等の提供に努め、「支え合い 助け合いのある 顔のみえるまち・かめおか」の実現に向け各事業を実施いたしました。

また、近年は地球温暖化等の影響を受け、地震や台風、集中豪雨等による自然災害が多発しており、万一の災害時には状況に応じた的確に対応できるよう常設型の「災害ボランティアセンター」を設置しています。平成27年度は亀岡市の総合防災訓練に参加し、災害時の速やかな初動体制への移行と円滑なセンター運営に関わる訓練を行ったところです。今後におきましても、被災地への効果的な支援活動を含め、構成団体の皆様とともに常設型の「災害ボランティアセンター」の機能充実・強化に努めてまいります。

平成27年度も当協議会の事業推進のため、多くの市民の皆様から尊い寄付金・寄付の品々、また、市民福祉のつどい開催における協賛金等をいただき心から厚くお礼申し上げます。以下、平成27年度の各事業につきましても、その概要を報告いたします。



# 平成27年度 事業概要

## 1. 法人運営

平成27年度も急速な少子高齢化や核家族化などの影響を受け、地域コミュニティに大きな変化がある中、地域の多様な福祉ニーズに対して、効果的に事業を実施するために、地域福祉を推進する社会福祉法人として、安定的な財源確保を図りながら法人運営の基盤強化に努めました。

当協議会の運営・財政基盤である会費につきましては、人口増加が見込めない厳しい状況の中で、多くの市民、企業及び各種団体の方々にご理解、ご協力をお願いし取り組みを行ったところ、総額9,956,950円のご協力をいただきました。

また、寄付金関係につきましても、一般寄付と指定寄付合わせて総額1,382,977円の寄付金及び多くの皆様から物品のご支援を賜りました。

なお、当協議会の活動を多くの市民の方々へ周知するため、各種事業・行事の開催などにつきまして、積極的にホームページ・社協かめおか等で広報活動を行いました。

## 2. 地域福祉推進事業

前年度同様、経済・雇用状況に好転が見られない中で、市民生活を支える生活福祉資金などの貸付相談をはじめ、くらしのサポートサービスや福祉サービス利用援助事業に積極的に取り組みました。

### (1) くらしのサポートサービス事業

市民の参加と協力によるボランティア会員により、公的な福祉サービスの利用が困難な世帯へ軽易な介助や家事援助などのサービスを有償で提供しており、年度末利用者数は75名（前年度比+8名）となりました。

### (2) 生きがい活動支援通所事業

介護認定を受けていない65歳以上の高齢者の生きがいづくりの一環として、曾我部町で日常生活動作訓練や趣味活動による交流の場を提供することにより、心身の健康保持に努めました。活動回数は45回で延利用人数は385人（前年度比△52人）となりました。

### (3) 福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）

認知症高齢者、知的障がい者及び精神障がい者など、判断能力の不十分な方が地域

で自立した生活が送れるよう、当協議会専門員及び生活支援員が契約に基づき福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを行いました。年度末利用者数は46名で、前年度と比較し7名増加しました。

また、活動回数も利用者個々の状況により増加し、年間延べ1,223回（前年度比+257回）と大幅に増加しました。

#### （4）生活福祉資金貸付事業

低所得者世帯、障害者、療養や介護を必要とする高齢者がいる世帯を対象に、資金の貸付けと必要な相談支援を行うことにより、安定した生活を送れるようにすることを目的とし、各地域の民生委員児童委員の方々と連携し資金貸付けを行いました。

近年の経済・雇用状況や生活困窮者への自立支援対策等から、生活福祉資金の相談件数・貸付件数は年々増加する傾向にありますが、平成27年度については総合支援資金・福祉資金・教育支援資金合わせて計54件、総額20,066,000円（前年度比△4件50,000円減）の貸付となりました。

#### （5）福祉金庫資金貸付事業

市民を対象に、自立更生が可能な世帯、特に必要と認める要援護世帯などに少額の資金を貸付けることにより、生活の安定に寄与し社会福祉の増進を図ることを目的とした当協議会独自の貸付制度です。平成27年度の福祉金庫貸付実績は合計10件で、総額190,000円（前年度比+7件130,000円増）の貸付となりました。

#### （6）地域助け合い支援基盤整備事業（日常生活支援総合事業）の推進

今年度から亀岡市の委託を受け、住民主体による地域包括ケアシステムの体制を整備するため、地域資源の把握、企業やボランティア、関係機関・団体との連携強化を図っていく下記の取り組みを行いました。

##### ① 地域資源把握のためのアンケート調査

亀岡商工会議所会員の1,173事業所を対象にアンケート調査を実施し、回答があった234件（回答率19.9%）の集計・分析をまとめ、今後の地域支え合いの仕組みづくりのための資源把握の資料として活用しました。

##### ② 地域力向上講座（3回シリーズ）の実施

講座に参加された市民、企業、自治会・地区社協、地域包括支援センター、ボランティア等関係者の皆さんが集い交流を深めることにより、今後の地域支え合い事業の推進にお互い連携・協働していくことを確認できる機会となりました。

### ③ サロン活動に関するアンケート調査

市内で開設されているサロン活動についてアンケート調査を行い、今後の地域支え合い事業に活用していくためのサロンマップ（市内 33 か所のサロンを把握）を作成しました。

### (7) 福祉生活課題解消支援事業

前年度に地域における福祉生活課題を把握することを目的に実施いたしました『くらしの状況と意識に関する調査』の分析結果を、住民向け講座にて、地域住民の困り事への対応を考えていただく基礎資料として活用しました。

### (8) 社会的孤立防止対策見守り活動事業

地域から孤立していると思われる人の発見、相談支援、見守り等を中心とした個別支援と、社会的孤立防止対策としての地域の理解促進を目的に平成 26 年度から事業を展開しています。個別支援における相談件数は 31 件で、一方の側面での支援のみならず、他にも生活しづらい課題があるのではないかという視点で相談を実施するとともに、出張相談窓口を毎月 1 回、亀岡駅近くの事業所にて開設しました。

また、福祉の出前講座として、小さい単位で地域に出向き地域住民の皆さんへ理解をしてもらうための講座を開催し、今年度は市と協働しながら、初めて災害時要配慮者に焦点をあてた福祉避難所体験講座を行いました。また、ライフライン事業者を対象とした講座を開催し、見守り通報活動等への協力を求めました。

さらに、モデル地域における見守り体制づくりとして、地域包括支援センター、市、地区社協等と協働のもと、“認知症”について理解を深めていただく住民講座の開催や認知症徘徊模擬訓練を実施しました。

今年度の新たな取り組みとして、「ひきこもりに関する調査・支援」を行い、ひきこもりに悩むご家族の方を対象にした家族教室を 3 回シリーズで開催するとともに、ひきこもり状態の方に関するアンケート調査を市内の民生委員児童委員の皆さんに協力をいただき実施しました。

### (9) 福祉用品貸出事業

介護用品等貸出事業として、介護用品などを市民の日常生活の維持に供するため、ベッド 36 件（前年度比△2 件）、車イス 102 件（前年度比△26 件）の貸出を行いました。

また、地域で実施されるサロン活動、子ども会、地区社会福祉協議会、福祉協力校

等への支援を目的に、合計で94件（前年度比+10件）のレクリエーショングッズや備品貸出を行いました。

### 3. 福祉コミュニティ推進事業

#### (1) 地区社会福祉協議会の推進及び支援

地区社会福祉協議会は市内12地区で組織されており、研修会への参加促進や助成金支援等、各地区社会福祉協議会の活動支援を積極的に行うとともに、設立されていない地区につきましても、引き続き地域のニーズを把握し、地域の実情に応じた組織づくりへの支援を行いました。

#### (2) 地域サロン活動の推進

サロン活動とは、生きがい活動と元気に暮らすきっかけをつくり、地域の見守り活動も兼ね、地域住民のつながりを深める活動であり、各地域ではサロン活動が活発に行われ広がりをみせています。年間を通じての随時訪問や研修・交流会を実施し支援を行いました。

#### (3) 小地域福祉活動の推進

一人暮らし高齢者世帯等の戸別訪問や、サロン活動による見守り等によって高齢者の孤立・孤独を防ぎ、安心・安全な地域づくりを目指す活動の強化（拡充）を図るため、自治会、地区社協等計20団体（8自治会、7地区社協、老人クラブ・NPO等5団体）に訪問見守りボランティア強化事業の支援助成を行いました。

### 4. ボランティア活動支援事業

ホームページ、社協かめおか等で、ボランティア活動の情報提供によるボランティア団体への支援とともに、活動を推進するための講座を開催しました。また、昨年度に見守り、相談支援の必要な人に対して寄り添い支援を行う“社協寄り添いサポーター”の養成を行いました。今年度はその研修を受けたサポーターが、対象者宅を訪問し、傾聴や情報提供活動を行いました。

また、今年度は新たに亀岡ボランティア連絡協議会や学生、企業にも協力をいただき「ボランティア交流会」を開催、活動発表やグループワーク等を通じてこれからの地域における支え合いづくりやボランティア活動について考える有益な機会となりました。

した。

空き缶のプルタブやペットボトルのエコキャップ、使用済切手やプリペイドカード等の“集めておくるボランティア”活動は、多くの市民の皆さんのご協力により寄附をいただき、プルタブで590.3キロ（昨年度比+191.3キロ：800キロで車椅子1台と交換）、エコキャップも開発途上国のポリオワクチン代（キャップ2キロでワクチン1人分）として寄附するため1447.1キロ（昨年度比+840.1キロ）を収集することができ、それぞれ再資源化業者へ送付しました。

また、災害ボランティアセンターについては、亀岡市の総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの運用訓練を行い、災害時の速やかな初動体制への移行及び円滑なセンター運営のための活動訓練を実施し、平常時の体制強化を図りました。

さらに、「京都府内、市町村域における現地災害ボランティアセンターの円滑な立ち上げ運用ポイント」の見直し作業部会に参加し、今後の事業運営の軸となる災害時の社協の役割等について再確認することができました。

## 5. 福祉教育

福祉協力校の指定を受けた市内小中学校において今年度は22校が、各学校での福祉活動をサポートするため、障がい者・高齢者の方への理解を目的とした福祉ボランティア体験事業を実施するとともに、中学生及び高校生を対象とした社会福祉体験学習事業を実施しました（参加者数計33名：すべて高校生）。

## 6. イベント募金

市全体を対象に実施されるイベント（亀岡光秀まつり等）と市内各地域で行われるイベント（夏祭りや世代間交流イベント等）に社協として参加させていただき、各イベントにおいて、綿菓子やポップコーン等を販売し、売上金額から材料費を差し引いた額を募金といたしました。募金の使い道は、共同募金の助成金として次年度に還元されることとなり、「亀岡のまちを良くするための地域福祉活動」や「各地域の課題解決事業」に活用していただきます。

## 7. 各種団体への支援

- ① 亀岡市社会福祉施設協議会

市内における地域福祉・在宅福祉の増進に寄与するため、各施設に関わる諸問題について協議し、各施設間相互の連絡調整を図り、諸機能の充実強化を進めています。

#### ② 亀岡市母子寡婦福祉会

母子家庭や寡婦の皆さんが安心して暮らせる福祉社会を目指し、同じ立場の親子の「つながり」の輪が広がる諸活動への支援を行っています。

#### ③ 亀岡ボランティア連絡協議会

市内におけるボランティア活動の効率的、効果的な推進のために亀岡市ボランティアセンターと協働して、ボランティア、ボランティアグループおよび福祉施設相互の緊密な連絡調整を行っています。また、組織的に市民へのボランティア活動の啓発を行うなど、ボランティア活動ならびに社会福祉の向上に努めることを目的として活動しています。

#### ④ 亀岡市老人クラブ連合会

亀岡市老人クラブ連合会は、亀岡市内の各地域52の老人クラブが加盟する約2,700名の組織であり、その事務局として、年間を通じて行われる様々な事業の開催や、事業活動・団体運営の援助等を行っています。

#### ⑤ 亀岡市障害児者を守る協議会

亀岡市における障害児者福祉の向上を目指し、学習会・研修会・事業などを展開し、障害児者福祉への理解と発展のため積極的に取り組まれています。会員は約250家族で、会議への出席や事業支援を行っています。

## 8. 介護保険事業

介護サービス事業者として、通所介護・訪問介護・居宅介護支援事業の3事業を行い、介護報酬引き下げ等の影響により、厳しい事業運営が懸念されましたが、「中重度の利用者を受け入れる体制づくり」や「利用者の視点に立ったきめ細やかなサービスの提供」に心がけ、中重度加算を含めた健全な事業運営に努めた結果、報酬引き下げの影響を最小限に食い止めることができ、介護保険収入は総額90,759,150円（前年度比△3,719,975円）となりました。

### (1) 訪問介護（ホームヘルプ）事業

介護保険における要支援者や要介護者宅に訪問介護員（ヘルパー）が訪問し、入浴・排泄・食事などの介助や日常生活上の支援を行い、年間利用者人数は654名（前年度



比+7名)となりました。

## (2) 通所介護(デイサービス)事業

介護報酬引き下げに対応するため、今年度から中重度ケア体制加算の算定を行い、中重度の利用者を受け入れる体制を整えました。介護保険における要支援・要介護認定の利用者へ、送迎・入浴・食事・健康チェック・外出やレクリエーションなどを通じて、心身の機能維持・向上と日々介護する家族の精神的・身体的負担の軽減となる様々なサービスを実施するとともに、保育園児や子育て支援センターとの交流、調理やクラフト、グループ体操等サービス内容の充実に努め、1日平均20名の方に利用していただきました。

## (3) 居宅介護支援(ケアプラン作成)事業

介護保険における要支援・要介護認定の相談援助、ケアプラン作成などを行い、利用者や家族等の様々な状況やニーズに応じたきめ細かな介護サービスを提供できるよう関係機関等との連絡・調整を行った結果、ケアプラン作成件数は昨年度と比べ大幅に増え年間873件(前年度比+113件)でした。また、亀岡市の高齢福祉サービスの利用等に関しての在宅介護支援も行っており、相談件数は電話、訪問等を含め55件(前年度比△18件)でした。

# 9. 障害者自立支援給付事業

## (1) ホームヘルプ事業

障害者総合支援法に基づく居宅介護事業として、障がい者の方が自宅で安心・安全に生活を送ることができるよう、訪問介護員(ヘルパー)が入浴・排泄・食事などの支援を行い、専門機関と連絡・連携を図りながら利用者個々の状況に応じた適切なサービスの提供に努めました。その結果、年間利用者数は363名(前年度比+59名)と増えたものの、収入は33,542,532円(前年度比△1,899,098円)となりました。

## (2) ガイドヘルパー派遣事業

障がい児者が外出する際の移動の支援として、ガイドヘルパーを派遣し、社会参加の促進を図りました。今年度の契約者は11名で、年間の延べ利用件数は48件でした。

# 10. 子育て支援事業

## (1) 子育て支援事業

子育て家庭が安心して子育てができる環境を整え、家庭における子育て力を高めるため、ひろば事業(1日平均76名利用)、つどい事業(年間66回開催)、相談事業(「おひさま」:年間381件〔前年度比+177件〕の相談に対応)の各種事業や情報提供を行いました。特に、相談事業については、利用者支援事業として専門員を配置したため、きめ細かな対応ができ、相談件数が大幅に増えました。また、地域における子育て支援として、つどい事業の一環である『かめおかっこ出前ひろば』は、民生委員・児童委員や主任児童委員をはじめ地域の方々のご協力を得て11箇所で開催し、各地域の高齢者の方々や小学生と交流する機会も増える中、地域に根付いた事業として定着しています。今年度は延べ16回の開催で、参加者は493名(前年度比△185名)でした。なお、ふれあいルーム開館日数は延べ308日で、来館者数は延べ23,536名(前年度比+835名)となりました。

## (2) ファミリー・サポート・センター事業

学童保育時における迎え、保育園・幼稚園の帰宅後の預かりや習い事の送迎など、仕事と育児を両立されている家庭への支援として、年間2,300件(前年度比+72件)の支援活動を行いました。

また、まかせて会員講習会も年11回開催し、子どもの安全や身近な事故の応急手当等について研修を行ったところ、延べ132名(前年度比+35名)の会員が参加し、日常の活動に役立てていただきました。

## 11. 市民福祉のつどい

平成27年10月18日、ガレリアかめおかとふれあいプラザにおいて「つながり合おう地域の輪 かめおかの輪」をテーマに、『第28回市民福祉のつどい』を当つどい実行委員会の主催により、「ふれあいフェスティバル2015」(第34回亀岡市障害者福祉大会)と合同で開催しました。

当日は約4,000名の世代を超えた人々が来場されましたが、今回は2会場となるためスタンプラリーの実施や「3.11東日本大震災復興支援東北・塩釜市物産コーナー」、「赤い羽根イベント募金」等、新たな企画を取り入れた多彩な催しにより交流を図りました。

なお、チャリティーバザー・模擬店の売り上げの一部を、「平成27年9月関東・東北豪雨被害への義援金」・「東日本大震災義援金」として、京都府共同募金会を通じて送金しました。

## 12. 共同募金配分金事業

自治会を中心に、市民にご協力いただいた赤い羽根共同募金は、福祉活動事業を実施する団体へ助成しました。

助成にあたっては、ホームページや社協かめおかで募集を行い、事業内容を企画調整部会で審査し、100団体、合計4,496,400円の配分金を助成しました。

## 13. 歳末たすけあい運動

新たな年を迎える時期に、支援を必要とする方々が地域で安心して暮らすことができるよう、平成27年12月1日から亀岡市自治会連合会をはじめ各種団体のご協力のもと、「みんなで支えあう あったかい地域づくり」をスローガンに実施しました。運動期間中の12月12日(土)には、各団体の協力により市内16箇所街頭募金を行い、また、各自治会の協力による地域募金なども合わせ、総額8,148,755円の歳末募金を集めることができました。

歳末募金の用途につきましては企画調整部会で審議し、寝たきり・認知症高齢者、重度障がい児者、交通遺児、被爆者、公害患者並びに生活困窮世帯の方々へ在宅見舞金として合計1,017件、5,085,000円を支給するとともに、物品寄付としていただいたタオル・石鹸・ティッシュペーパー等を市内福祉施設19箇所へ配分しました。

さらに、身近な地域でのひとり暮らし高齢者の方などを対象とする援助活動として、各町自治会、各地区社協及び民生委員児童委員協議会の皆様のご協力で行った年末年始事業に、合計2,254,000円を助成しました。